

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

ボーナスの年収比率の長期的減少 川口 大司 (一橋大学経済研究科教授)

1. なぜ企業はボーナスという可変的な支払い形態を使うのだろうか。数ある仮設の中で説得力のあると思われるのが、オハイオ州立大学の橋本正紀が 1979 年に「ジャーナルオブポリティカルエコノミー」誌に掲載した論文で提唱した仮設だ。彼はボーナスとは特定の企業だけで使える企業特殊的技能に対する対価だと考えた。
2. 技能が、企業特殊性を持つとき、その企業が倒産してしまうと、その価値を失ってしまう。そのため、2008 年の金融危機後のような難局が企業を襲った際には、労働者も企業も双方が我慢することで難局をしのぐ。賃下げ余地を残すための制度的な工夫がボーナス制度だというわけである。
3. 企業特殊的技能は若年者よりも中高年に蓄積されていると考えられ、年収に占めるボーナス比率も年齢と共に上がっていく。また、企業特殊的技能からの収益を回収するためには、企業が長期にわたり存続するという期待が重要なので、大企業で企業特殊的技能の重要性が高いとされている。ボーナス比率は企業規模に比例しているため、これも仮設と整合的である。
4. この年収に占めるボーナス比率、男性労働者の間では 1981 年から 1998 年まで 22%前後で安定していたが、2013 年には 17.6%になっている。企業特殊的技能の重要性低下が長期的に起こっている。非正社員の増加、平均勤続年数の短期化、賃金カーブの平坦化と並んで、現在の日本の労働市場が長期的な変化の真ただ中にあることの証左といえよう。
(参考:「週刊ダイヤモンド」2014 年 7 月 26 日号)

経営者のための理念・哲学

修身・齐家・治国・平天下の意味

童門 冬二 (作家)

1. 中国の古典に「大学」というのがある。昔、公立学校の校庭に立っていた、二宮金次郎 (尊徳) が読んでいる本だ。戦後、東京都内の公立学校では、ほとんどの金次郎像が撤去されたが、この「大学」の中に人間の生きるコースを示す言葉がある。「修身・齐家・治国・平天下」だ。逆にたどれば「天下 (国家) を平和に経営するためには、地方がきちんと治められ、そのためには地方の構成員である住民の家庭が整い、家庭が整うためには、家族の一人ひとりが誠の心を忘れずに、自身を修める必要がある」というような意味だ。
2. 私は、この過程には「自治」という考えが貫かれていると受け止めている。修身は個人の自治、齊家は家庭の自治、治国は地域の自治、平天下は国家の自治だ。

(参考:「週刊東洋経済」: 2014 年 7 月 26 日号)

経営者のための危機管理

シャープの風土改革

1. 一時倒産を覚悟した瀕死の経営危機から 1 年余り。シャープには組織を蝕む「けったいな文化」があった。例えば①自分の保身のためにダラダラと大量のメール送信。②「社長の言う通りにすれば間違いない」と考える指示待ち姿勢。③経営トップの独断による行き当たりばったりの幹部人事。④社長が事務所に来る日は、全員で大掃除。⑤「ウチの技術は世界一」という押し付け営業。⑥悪い情報は上司に報告しない隠ぺい体質。
2. 企業風土の課題と改革内容
 - ① 上司を「社長殿」「部長殿」など二重の敬称で呼ぶのを役職や年代にかかわらず、「さん」で呼ぶ「さん付け運動」を展開した。
 - ② 根回しが横行し、社長訓示を聞くだけの「セレモニー」と化した会議を、出席が平等に情報を共有する議論中心の会議へ変えた。

(参考:「日経ビジネス」: 2014 年 7 月 28 日号)

古典に学ぶ

天道と人の道

(解説) 天道のはたらきは、あたかも弓に弦を張る動作に似ている。弓に弦を張るには、上端を引き下げ、下端を引き上げ、長い方 (弓) をちぢめ、短い方 (弦) をひっぱる。天道はこのように、あり余るものを減らし、足らぬものを補う。だが、人の世の道は、まったく逆だ。足らぬ者からしぼり取って、あり余る者に貢いでいる。聖人は、万民に施しながらも、そのはたらきを誇らず、その成果にも無心である。

(参考: 奥平卓・大村益夫訳「老子・列子」: 徳間書店)